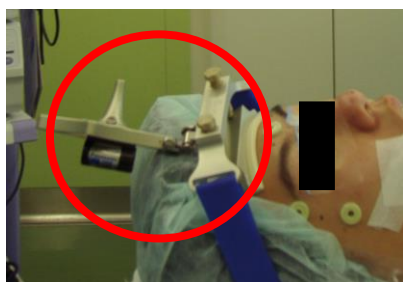


# ナビゲーションで安全な副鼻腔内視鏡手術

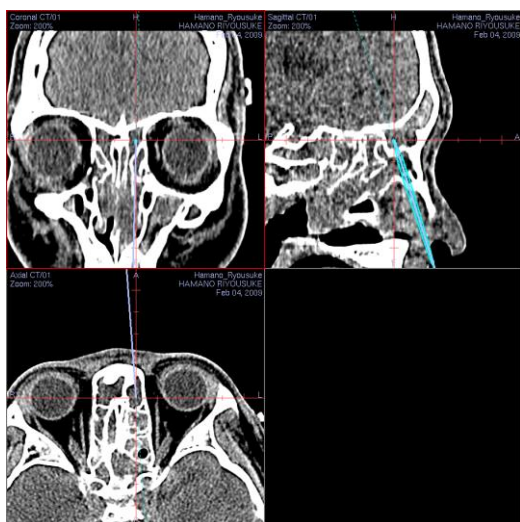
耳鼻咽喉科 瀧口哲也



手術風景



ベルトで頭を固定したセンサー



ナビゲーション画面

前頭洞入口部に達している

副鼻腔炎は鼻腔の周囲にある部屋（副鼻腔）と鼻腔との間の交通路が閉鎖し、膿が溜まり、鼻づまり、鼻汁、頭痛、顔面痛など生じる疾患です。鼻茸が合併すると鼻づまりが増悪しなおりにくくなります。

治療は抗生剤の内服やネブライザー吸入を行ない重症例では点滴も行ないます。これらの治療を行なったにもかかわらず2、3か月で改善しなければ手術治療が必要になります。

鼻腔内から鼻茸を切除し、副鼻腔を開放し、膿汁を吸引し、再び副鼻腔炎になりやすくように形を整えてきます。

副鼻腔は、頭蓋底や眼窩に近い病変もあり、開放するのがためられることがありました。ナビゲータを併用することにより、術中にミリ単位で位置情報がわかり、副損傷をさけながら病巣をぎりぎりまで清掃することが可能となりました。従来脳外科用のピンで頭蓋骨を固定していましたが、この度、センサーをベルトで額に固定し頭に傷を残す事なくナビゲーションが使用できるようになりました。先端医療として、当科で運用が開始されています。

詳しくは耳鼻咽喉科医まで。

